

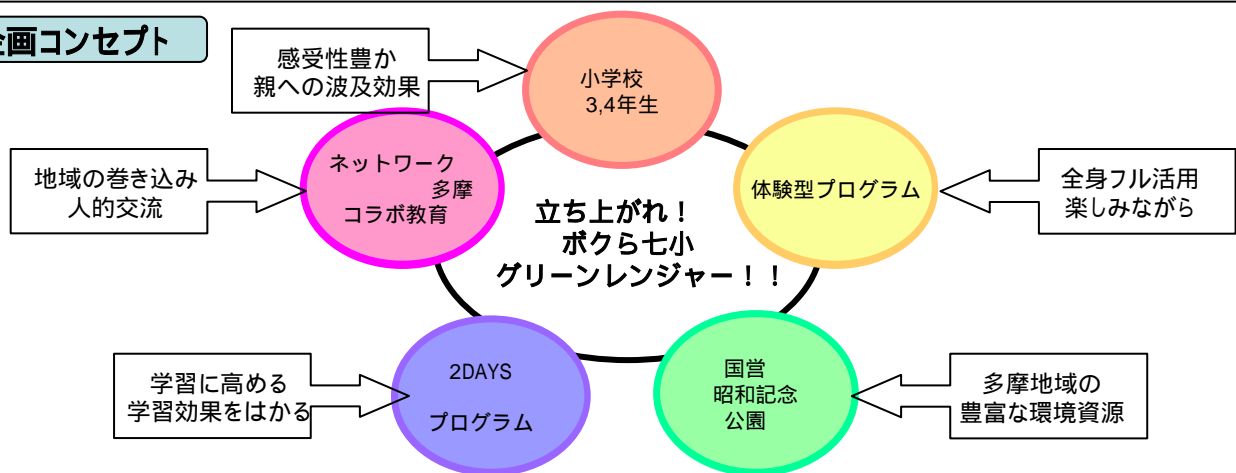
昭和記念公園環境教育プロジェクト

学術・文化・産業ネットワーク多摩 学生委員会
中央大学 総合政策学部 細野ゼミナール

実施経緯

京都議定書や地球サミットなど世界中で環境問題への取り組みが行われている。しかしCO2排出量は増加する一方であることなど、その取り組みが環境改善へとつながっていないことは明らかである。その原因を探るため、個人レベルでの活動を環境に対する意識調査において調べてみると、環境問題を認識はしているが、それを実際に行動には移せていないことが分かった。つまり認識と行動の間にギャップが生まれているのである。ではなぜギャップが生まれているのか。私たちはその原因を漠然とした情報を受容し、環境問題を自身の問題として捉えることが出来ていないと考えた。それを解決するには、教育効果が高い早期からの教育が必要であると感じ、私たちは地域における体験型環境教育プロジェクトを実施した。

企画コンセプト



CO2コース

- ねらい: 地球温暖化の問題を身近にとらえ、解決策を考える
- ・目かくしトレイル 視覚以外の五感で自然を感じ、"森の役割"を学ぶ
 - ・クイズ CO2に関する基礎知識を学ぶ
 - ・ケナフ先生のお話 ケナフが地球温暖化に対して、どのような効果があるのか

ゴミ問題・リサイクルコース

- ねらい: ゴミ問題を身近にとらえ、削減方法を考える
- ・クイズ ゴミ問題とリサイクルに関する基礎知識を学ぶ
 - ・ゴミビンゴ ビンゴゲームのルールで、身近なゴミの削減方法を考える
 - ・リサイクルセンター リサイクルの現場を実際に見学

二日目

- ねらい: 一日目に体験したことを頭で整理し発表することで学習にまで高める
- ・多摩川のお話 多摩川の汚染の改善事例から、地域ぐるみの取り組みの重要性を訴える
 - ・発表準備 KJ法を用いて、模造紙に学んだことをまとめる
 - ・発表 「今、わたしたちにできること」をテーマに発表する
 - ・ゴミ対策係長のお話 立川市役所の方のお話により、ゴミ問題についての更なる理解を深める
 - ・表彰 二日間のプログラム終了生にグリーンレンジャー認定証を与える

プロジェクトを終えて...

今回の環境教育プロジェクトの効果をはかるため、イベント実施前後、2回にわたり小学生にアンケートを実施した。その結果、「電気をこまめに消す」が56.2%から84.2%、「食べ残しをしないか」が59.7%から100%にまで上昇した。つまり今回の環境教育には、大きな教育効果があったと言えるであろう。また、プロジェクトを実施した2日間、小学生たちは生き生きとした表情で、楽しみながら環境について考えてくれた。「まだ帰りたくない」「また来年もグリーンレンジャーに参加したい!」このようなうれしい言葉を残してくれた小学生の顔を私たちは忘れることができない。環境問題は今後も継続して取り組まなければならない、私たち一人ひとりに関係のある問題である。私たちはこの環境教育プロジェクトが今後も継続して行われていくことを期待している。